

第2回 加古川市教育振興基本計画検討委員会 会議録

会議名称	第2回加古川市教育振興基本計画検討委員会
開催日時	令和6年8月22日(木) 15時から16時25分まで
開催場所	加古川市役所 南館3階 301会議室
出席者	<p><委員> 浅野 良一、松田 信樹、菅原 悦夫、藤本 静代、本山 政幸、浜田 時子、徳田 敬子</p> <p><事務局> 小南教育長、鹿間教育総務部長、松尾教育指導部長、車谷教育総務部次長、 尾崎教育指導部参事、井上教育指導部参事、 今津教育指導部参事、真鍋教育指導部参事、福本教育総務課長、岡本学校教育課長 吉田教育総務課副課長、大西学校教育課指導主事、竹内教育総務課管理調整係長、 太田教育総務課主査</p>
会議次第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 (1)第1回検討委員会開催の概要について (2)第4期計画の素案について (3)かこがわこどもアンケートについて 4 その他 5 閉会
配付資料	1 第1回加古川教育振興基本計画検討委員会 開催の概要について 2 第4期かこがわ教育ビジョン(加古川教育振興基本計画) 素案(第1版) 3 第4期かこがわ教育ビジョン 計画体系図(案) 4 かこがわこどもアンケートについて 5 計画体系整理表

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1)第1回検討委員会開催の概要について

議事内容(発言者、発言内容、経過等)	
事務局	「資料1」に基づき説明
各委員	異議なし

(2)第4期計画の素案について

議事内容(発言者、発言内容、経過等)	
事務局	「資料2」及び「資料3」に基づき説明
委員	<p>「地域総がかり教育の推進」に関して取組を行って久しいと思うが、現場にどれだけ浸透しているのか危惧する場面がある。教育現場が本気で地域と関わりをもって教育を進めていくという意識がないと進まない。</p> <p>何かしらの方針を打ち出す際には「伝わる」ということを意識する必要がある。文書等で連絡をすることは「伝える」であり、相手が理解して認識できたことを表す「伝わる」とは異なる。様々な方針等を教育委員会から現場へ連絡すると思うが、「伝わる」ということを大切にしてほしい。それを受けて現場は、子どもたちに対して伝わったかということ意識する必要があると考える。これは地域も学校現場も同じであり、とても大切なことだと考える。</p>
事務局	<p>「地域総がかりの教育」は、加古川市としても大切に取組んできた項目である。学校園連携ユニットや学校運営協議会を導入し、地域の方々にも参画いただきながら地域とともにある学校をめざしている。具体的には、毎年リーフレットを作成し各学校へ示したり、コミュニティ・スクールに関する研修を企画し、委員にも参加いただいたりしながら、地域と学校が共に学びを進めている。</p> <p>こうしたことを今後も継続して取り組むことで学校現場に浸透するよう努めていく。</p>
教育長	<p>受け止める側にどれだけ理解してもらえるのかということは、とても大切な観点であり、第4期の教育振興基本計画においてもどれだけ多くの関係者に伝わるのかということが大きな課題であると考えている。</p> <p>学校における学びに関係する課題についてもより分かりやすい形で認識してもらえるように必要なデータを積極的にオープンにしていくようなスタンスが必要である。例えば、これまで平均点のみ示していた全国学力学習状況調査の結果について、分布図等の分かりやすいデータを併せて示すことで各学校が現状を認識しやすくなるものと考えている。</p>
委員	<p>地域総がかりの教育に力を入れようと思うと、学校の先生方は地域との関わりに時間と労力を要するが、子どもたちの健全育成のために必要なこととして、地域と学校が互いに協力しながら、働き方改革のことも考えつつ前向きに捉えてもらいたい。</p>
委員	<p>基本方針が14項目あるが、それぞれが独立しているだけではなく、リンクし繋がっているように思っており、かなり網羅できているのではないかと考えている。</p> <p>ただ、こうした基本方針に記載されているような内容は、小学校の現場では状況的にも感じ取れるような部分が多分にあると思うが、中学校になると突然「成績」という概念が前面に出てきて、学年での順位というものを意識せざるを得ない状況となり、教育ビジョンに掲げられた施策を感じにくくなると実感している。</p> <p>また、従前はPTAが主催で行っていた行事などが、コロナ禍で一旦無くなり、その後有</p>

事務局	<p>志に引き継がれるといった新たなステップに進んでいる地域もあると認識している。</p> <p>中学校教育には、出口として「高校受験」というひとつの目標もあることから、自分たちがどういった進路に進んでいくのかということを考える際に成績や順位という情報を認識しておく必要があるため、本人には個票で通知をしている。数字が見えるためどうしても詰め込み学習ではないかという印象が強いかもしれないが、中学校においても「協同的探究学習」を取り入れながら「協働的な学び」を重要視して学習を進めており、中学校教育の在り方は少しずつ変わってきていると考えている。</p>
委員	<p>現行計画では「重点目標⑨特別な支援や配慮を要する子どもへの支援」内に「具体的な方針①インクルーシブ教育システムの構築」という文言があるが、第4期の体系図では近い意味を表す文言に変わっている。インクルーシブ教育というと、障害のありなしに関わらず共に学ぶことで共生社会の実現をめざすことを目的としており、これからの時代に必要になる取組と考えているため、変更された意図を教示されたい。</p> <p>続いて、第4期の体系図では「基本方針3 教育DXの推進」及び「基本方針12 教育を支える仕組みの確立」内の「具体的な取組④校務DXの推進」とあるが、「DX」という言葉について世間の幅広い世代に理解しやすいように、巻末などで用語解説にて説明をする必要があると考える。</p> <p>続いて、第4期の体系図の「基本方針6 豊かな心の醸成」内の「具体的な取組④心ふるえる体験活動の充実」とあるが、どういった体験活動が心ふるえるのか例示のような表現があってもいいのではないかと思う。</p> <p>4点目は、「基本方針11 家庭教育支援の充実」内の「具体的な取組①家庭や地域の教育力向上をめざした取組の充実」とあるが、「充実」と言うと現時点である程度の取組があるものをより良くしていくということをイメージするが、私の肌感覚では「推進」の方が相応しいのではないかと考える。</p>
事務局	<p>1点目として、インクルーシブ教育の重要性については認識しているところであるが、それと同時に多様なニーズに応じた学びの場の確保も重要なテーマとなっている。第4期の体系図では、「基本方針7 多様な教育的ニーズへの対応と包摂性のある教育の推進」と様々なテーマに対応できるよう表現を大きく広げた形になっており、その過程で「インクルーシブ教育」という具体的な文言は用いていないものの、抜け落ちているというものではない。</p> <p>2点目として、「DX」という表現については、用語解説が必要になってくるものと考えている。できる限り分かりやすい文言や表現を用いるようにしているが、教育の専門用語などには用語解説ページにて説明をする。</p> <p>3点目及び4点目については、ご意見としていただき、表現などについて検討する。</p>
委員	<p>現行の第3期から第4期にかけて、体系図の各項目について、「基本的方向」を「柱」へ変えるなど変更がされているが、この意図を教示されたい。また、「基本方針2 新しい時代に求められる資質・能力の育成」とあるが、「新しい時代に求められる資質・能力」とはどう</p>

事務局	<p>いったものを想定しているのか。</p> <p>大項目については、第3期では「基本的方向」としており、これが4つ別々の方向を向いているような意味で捉えてしまうのではないかと考えられるので、加古川市として同じ方向を向いて教育が進んでいるということを表現するため、第4期では「柱」とした。中項目については、第3期では明示していた「重点目標」という文言は、そもそも目標があってその中で優先度の高いものを指す場合に使われることが多く、我々としては、中項目は全て重要であるとの認識であるため、第4期では「基本方針」とした。小項目については、中項目を「基本方針」として明示し直すことを受けて、第4期では「具体的取組」とした。</p> <p>「新しい時代に求められる資質・能力」については、第4期ではICTを活用し、自分の能力に合わせて学びを進めることや、個々に合わせた指導を推進する「個別最適な学び」ということと、クラスの仲間と共に意見を交わし学びを進める「協働的な学び」を一体的に行うことが重要であるため、新たに具体的な取組に追加した。また、全ての学びの根本にある読解力の育成に関することと、自分自身が社会に貢献できること、社会を変えていける主権者の一人である意識を醸成することが重要であると考え、新たに具体的な取組に追加している。こうした資質・能力が新しい時代に求められるものと考えている。</p>
委員	<p>読解力などは、過去より基本的な課題として認識されていると考えるがいかがか。</p>
事務局	<p>これまでの日本の教育は答えがあって、知識を蓄えていくことに注力をしてきたところがあったが、これからは新しいことを創造していく必要があると考える。そのために協働や個別最適な学習を通して、子どもたちの良いところを伸ばしていくことが重要である。我々がこれまで経験したことがないような課題を多様な人たちと協働しつつ発見し、解決していくということが新しい時代に求められる資質・能力だと考える。こうしたことは、これまでの学校教育では教えていなかった部分ではないかと感じているため、それを指導する教職員も常に学びを続け、資質の向上が求められていると考える。</p>
委員	<p>「基本方針 2 新しい時代に求められる資質・能力の育成」内の「具体的な取組⑤持続可能な社会の創り手としての主権者意識の醸成」という項目は、具体的にどういったことをしていくのか教示されたい。</p> <p>「基本方針 8 全ての子どもが安心できる居場所づくり」内の「具体的な取組①いじめ・不登校・問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応」及び「具体的な取組③不登校児童生徒への支援の充実と多様な教育機会の確保」についても具体的な施策を教示されたい。</p> <p>また、「具体的に取組」として、53の取組が現時点で挙げられているが、本当に取り組むことができるのか危惧する。</p>
事務局	<p>「具体的な取組⑤持続可能な社会の創り手としての主権者意識の醸成」については、第4期に新たに追加した項目となるため、具体的な内容はこれから精査することになるが、子どもたちが表明した意見を行政が進める取組に反映することや子どもたち自身が社会を変える一人であることを認識できるよう主権者意識を育むための取組を進める。</p>

<p>委員</p>	<p>「具体的な取組①いじめ・不登校・問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応」については、子どもたち誰もが行きたくなる学校づくりに向けた取組であるとか、相談行動促進事業などが未然防止の取組として挙げられる。心の相談アンケートなどが早期発見の取組であり、子どもたちの小さな心の変化を見つけ、早期に対応できる取組を推進している。</p> <p>「具体的な取組③不登校児童生徒への支援の充実と多様な教育機会の確保」については、個々の児童生徒の状況に対応した居場所づくりをわかば教室などの継続事業を含めた取組を進める。</p> <p>「具体的に取組」の数が 53 あることについては、第 3 期計画では 67 の項目があったが、読み手に伝わりやすいように、ある程度圧縮しつつ表現を見直しているところである。</p> <p>第 4 期には、「基本方針 3 教育 DX の推進」が掲げられているが、この DX という施策が子どもたちの教育の質あるいは学びの向上に寄与しているのかということを常に批判的に見ていく必要があると考える。</p> <p>2 点目として、基本方針のなかに「環境」という言葉が度々出てくるが、ハード面とソフト面の両方で同じ「環境」という言葉を使用してよいのか。ソフト面の取組を表す際に「環境」と言うと、市は環境整備までで終わってしまい、活用に関しては市民に投げかけてしまっているような印象を受ける。</p> <p>3 点目は、生涯学習に関する事項が薄いように感じる。もう少し生涯学習を含めた社会教育の視点を厚くしてもよいと考える。</p> <p>4 点目は、「心」の表記についてである。基本理念では平仮名となっているが、そのほかは漢字で表記されている。この点についても精査してもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>ICT 技術が子どもたちの学びにどれほど寄与するのかという点については、社会全体として効果検証はまだまだこれからであると認識している。しかしながら、これまでは教室でしかできなかった授業が ICT を活用して外に飛び出して学ぶことができている。例えば、運動場に端末を持ち出して写真撮影をして学習に用いるなど、これまでにない学びの活動に取り組んでいる。こうした取組をさらに子どもたちにとって効果的な形へと昇華させていくことが重要だと考える。</p> <p>「環境」の表現については、事務局内で検討させていただきたい。</p> <p>生涯学習に関するご意見については、はじめに第 4 期の「柱」以下を検討する際にできる限り多世代を意識したものにしたという意図を持って順番に設定していったところ、結果的に「基本方針 5 何歳からでも学び活躍できる生涯学習環境の充実」にまとまった見え方となっている。しかしながら、他の「基本方針」内の「具体的な取組」を見ると、「性の多様性に関する正しい知識の普及・啓発」や「保護者として成長する学びの推進」などは、生涯学習のニュアンスが含まれているものと認識している。このように生涯学習については、全体に散りばめて設定しているものとする。</p> <p>「心」の表現については、基本理念では過去より継承してきたものでもあるため、今後精査していきたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>教育 DX については、子どもたちが機器を使用することによる弊害を心配する声もある</p>

委員 長	<p>ことから、気をつけなければならないポイントを慎重に見極め、活用していく必要がある。</p> <p>しかしながら、社会全体として生成 AI などの新たな技術が出てきて、パラダイムシフトが起きている。そうした社会情勢の下、学校教育において子どもたちが ICT を活用することは必然になってこようかと認識している。そのような環境の中で弊害の部分をどれだけ無くしていけるのかということについても各委員のご意見を伺いながら進める必要があると考える。</p> <p>確かに弊害があるからといって及び腰で活用しないということではなく、前向きに使って、課題と向き合って考えていくことは大切なことだと感じる。元来、こうした基本計画は網羅的にならざるを得ない。施策同士が重複している部分もあり、綺麗に小分けにして並べるといことは難しいと考える。</p> <p>また、各委員の意見から、大きく欠落している項目はないように考えるため、事務局にはこの枠組みを基礎として、各意見を検討しつつ整理を進めてもらいたい。</p>
------	--

(3)かこがわこどもアンケートについて

議事内容(発言者、発言内容、経過等)	
事務局	「資料 4」に基づき説明
委員 長	本アンケートは、どのような活用を想定しているのか。
事務局	<p>所管部署によって若干異なるところはあるが、子どもたちが意見表明権について認識しているのかということを確認したいという意図がある。また、市の最上位計画である「総合計画」の策定においても子どもたちの意見を反映する手法が乏しく、難しいところがあった。今回のアンケートだけで満足いく結果が得られるかは不透明だが、まずやってみて、今後ブラッシュアップしていくことを考えている。</p> <p>また、教育振興基本計画においては、学校に関する項目で子どもたちが大切だと考えていることを汲み取り、反映していきたいと考えている。</p>
委員 長	学校生活に関する設問で 4 つの分野に分けた理由などがあれば、説明願いたい。
事務局	第 4 期の体系図の中にこの 4 つの要素が散りばめられているものと考えており、その中で子どもたちが大切だと考えていることがどのように分布するのか確認したいと考えている。
委員	回答項目に「性別」がある。昨今デリケートな項目だと思うが、回答させる意図を説明願いたい。
事務局	関係部局との準備段階でも同様の意見があったが、企画部門で実施している「市民意識

	調査]でも「性別」を伺っており、そうした別のアンケート調査との相関関係や分析に必要との結論に至り、設問として設定をした。
教 育 長	委員のご指摘はごもっとものご意見である。ただ、義務教育課程では男女の成熟過程も違っており、男女別の傾向を見ることも必要であると考えている。
委 員	自由記述欄については、ハードルが高いと感じた。
委 員 長	自由記述だとインパクトの強い回答が出てくることもある。こういった結果が出てくるのか楽しみである。 また、既にアンケートが実施されているとのことで、保護者からご意見やご質問があれば紹介願いたい。
事 務 局	現時点で保護者からの問い合わせはないが、全児童生徒約 20,000 人のうち、現時点で 1,000 件ほどの回答があることを確認している。2 学期が始まると回答数はさらに増えてくるものと考えている。

4 その他

議事内容(発言者、発言内容、経過等)	
委 員	<p>具体的な取組のところで、体の健康や心の健康に関する項目で薬物に対する教育を盛り込んでもらいたい。昨今、中学生の身近に薬物があるという現実があるため、義務教育課程において、酒やたばこなどと併せて学ぶ機会が必要であると考えている。</p> <p>また、学校図書館の充実として「学校司書の配置」というような事柄を盛り込めないか考えてもらいたい。新たにこの 4 月に開校した義務教育学校の両荘みらい学園の学校図書館は、地域の方も利用できる環境が整えられており、一元管理されている。図書館における学習環境としては非常に恵まれていると感じた。特に、中学校時代に出会う図書によってその後の人生に影響を受けることもあるため、他の小中学校でも両荘みらい学園のような図書館の環境づくりを検討してもらいたい。</p>
事 務 局	薬物に関する教育については、薬物乱用防止教室などを通じてその危険性・有毒性を学ぶ取組に力を入れている。体系図では文言としては見えていないが、「基本方針 4 健やかな体の育成」内の「具体的な取組②健康教育・食育の推進」に含まれる内容となっている。今後も引き続き取組を続ける必要のある項目であると考えている。
委 員 長	図書館に関しては、今後具体的な取組を検討していくうえでのご意見として受け止めてもらいたい。

5 閉会